



南米ふれあいの旅

<ブラジル編> 聖書を枕に 異名サムライ高島総元

戦後五十年ということで、私自身の過去をふりかえっておりますが、神様の憐れみによって、今日まで生かしていただいていることを痛切に感じます。当時私は下級幹部として内地で敗戦を迎えましたが、すべてが崩壊してしまった状況下でやけくそになっていました。兄がアマゾン移住していたので呼び寄せてもらって渡伯したものの、ジャングル生活が馴染めず、町での仕事にも馴染めずに自暴自棄になってしまい、ピングアと言う強い酒を飲んで落ち着いていました。

そんな時でした。勤めていた建築会社の同僚の母親に一冊の聖書をいただいたのです。何か心の支えでもと救いの手をさしのべてくださったのに、私

の方は聖書を読むどころか、昼寝の枕替わりに使って高いいびきをかいていたのです。

相も変わらず毎晩飲み歩く毎が続いている最中、サンパウロの中心街で店から隣にいた人様のジャンパーを間違えて持って帰ってしまいました。家では私はうるさい父親でしたから自分の過失を見せたくなくて「バスの中で酔っ払いが置いていったので・・・」とその場をつくらったのですが、それが心に引っかかってしまいました。その時から、横になれない、食事も、水も喉を通らない三日感が過ぎ、体がガタガタ震えてきたのです。「お前のような奴は死ぬ」という声まで聞こえてくるんです。神がかりみたいですが本当なんです。「私が死んだら家族が困るんで何とか助けください」とお願いするんですが、「駄目だ。お前が助かりたいのなら、枕にしている本（聖書）に書いてあるようにしなさい。」と言われてので、私は一度も開いたことのない聖書をパッと開いたら、こう書いてあるのです。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、あの罪を赦すすべての罪から私たちを清めてくださいます。（ヨハネ第一の手紙1章9節）」そんなことはしたくないと他の箇所を読もうとしてもいつも同じところに出くわすのです。寝られない、食べられないでふらふらになった私はこのままではいけないと決心して「実は私は嘘をついていた。悪い夫であり、父親だった」家族の前に手をついて謝ったのです。そうしたらすう〜と良くなりました。早速、家にある世界中の酒を処分してしまいました。酒もタバコも欲しくなくなったのです。次の日曜日、教会には玄関まで連れて行かれても足を踏み入れなかった私なので、三日坊主だろうと言われながら、すでに三十年を越しました。これはすべて神様の憐れみであり、驚くべき恵みだと感謝しています。

「アンデスの声」との出会いは、どなたからか毎日一時間の日本語放送があるよと教えていただいたので、早速短波ラジオを買って聴き始めたのですが、それはそれはよく聞こえました。サンパウロ市内の放送局よりもずっとよく入ってくるので、あれからずっと時間になるとスイッチを入れるのが毎夕の習慣になっていました。ブラジルには「アンデスの声」をきかれて教会に導かれた人が多くおられます。今後とも一人でも多くの人が神様の恵みと祝福を受けられるようにと願っています。（1995年8月収録）

日本の裏というなら
それでいい
ここブラジルの
豊かな大地



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
11月06日	南米ふれあいの旅： 高島 総元さん（2）	11月07日	聖書遊覧バス 出エジプト記：モーセ物語（1）
11月13日	サボテン日記：（英語こぼれ話）小畑いよ子	11月14日	リスナーからの「お便り交換の時間」
11月20日	折り紙の詩（ルーマニアにて）	11月21日	聖書遊覧バス 出エジプト記：モーセ物語（2）
11月27日	マリンバの調べ（手品師、ショウボート他）	11月28日	聖書遊覧バス 出エジプト記：モーセ誕生（3）

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半~8時 15410kHz [再放送] 午後8時~8時30分 11.905kHz
（米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信）

